

# 平成28年11月2日(水) 地区授業研究会

- ・実践報告 「形と色の不思議」 宮崎台小学校 小野田先生
- ・地区授業研究指導案検討

# 平成28年11月30日(水) 地区授業研究会

会場	川崎市立新作小学校
参加人数	50人

## やぶいたかたち からうまれたよ

第1学年 草薙 寛子先生

題材のねらいをもとに、大切なことを確認して活動に入る。

みんなでちぎったたくさんの紙の中からいい形を見つける。

○やぶり方で工夫したことは  
曲に合わせてやぶった。久石譲氏の曲に合わせて切った。また、ニコニコの形など、イメージに合わせて切るようなこともした。上質紙の包装紙などを大量に用意して自由にきる活動も取り入れた。

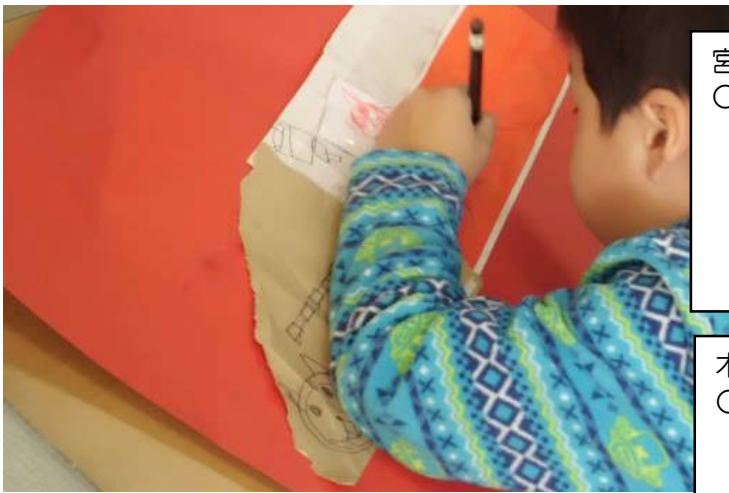
台紙の色も様々。やぶった包装紙の色や模様との組み合わせを考える。

犬蔵小学校 山田  
○台紙が選べるようになっていて、やぶいた形からイメージして1年生なりに自分の感覚に合わせて選んでいた。

富士見台小学校 田口  
○はみ出してもいい、立体に折り曲げてもいいと設定した理由。  
・包装紙をやぶるとき、楽しくダイナミックに切っていた。今までの作品とは違い、大きくやぶっていたので、はみ出したほうがやりやすいと考えた。  
立体については特に何も言わず、自発的だった。  
○グループにせず、前を向いて活動した理由。  
・やぶいた紙が誰のものかわかるように、自分の世界で製作できるように考えた。

宮内小学校 吉田  
○材料が包装紙だったが、どのように集めたのか。  
・やぶる体験をしてから数日空いたが、その間に自分で包装紙を探していた。買った人もいたようだが、包装紙でつくりたいという思いは感じられた。

菅生小学校 渋谷  
○自分人形について  
自分人形と一緒にたんけんに行くという設定だったが、教室をぐるぐるたんけんしていた。その間にどのようなたんけんが子どもたちの中で広がっていたのかも興味深い。  
・考えが止まってしまう子どもがいると思われたため、自分人形でイメージすることで、手が止まらず発想できるのではないかと考えた。  
・好きな本の台詞の「エイエイオー」とこえかけしながら活動していたが、特に止めることはせず、お気に入りの紙を探そうと促した。



宮崎小学校 小野田

○ダイナミックに表現してほしいなど教師の思いはあっても、押し付けるわけではなく、自然に子どもの思いで取り組めるようになっていた。表現をする際にもっと選べるようにするなら、活動している机と、やぶいた紙の置場がもっと近いといいのではないか。

木月小学校 木村

○糊が手についたときに困っていたので、そうきんなどが、手元にあるといいと感じた。子どもたちは夢中で活動していてよかった。



- ちぎった時は机をどけて、広いところでダイナミックに活動した。今日は、机の上が活動の場所になるので、前に集めて置いた。確かに後ろの子どもにとっては遠いかもしれない。
- 糊については、でんぷんのりなどを指で伸ばす場合は、そうきんも用意しているが、今回は特に触れなかった。糊の選び方についても考え方があれば知りたい。



## My picture's world

写真から広がる世界

第5学年

佐藤 早峰先生

犬蔵小学校 寺瀬

○導入の実演などが、子どもたちを飽きさせない手だてがよかった。今回は写真から発想を広げる活動だが、技法もおさえていたので、発想と技法の両方重きを置いて行っていて、すごいと思った。授業者としてはどちらを重視していたのか。

向丘小学校 藤井

○今回、いろいろな技法を紹介していて、見ながらやってみたいと言っている子どももいたが、今回は、紹介した技法を使うことがねらいなのか、自由にいろいろな技法を使ってよいのか。



- 今回は発想を重視していたが、思いついたものを表現するために必要となる技法もおさえたいと考えた。実演をしたら、発展編にも挑戦している子どもがいた。教科書では、スパッタリングなどの技法も使うような活動になっているが、今回は水彩絵の具の技法だけにしぼって紹介した。製作の途中でクレヨンを使っていいかと聞く子どもがいたので、ほかのものを使いたいと思っている子どももいたかもしれない。

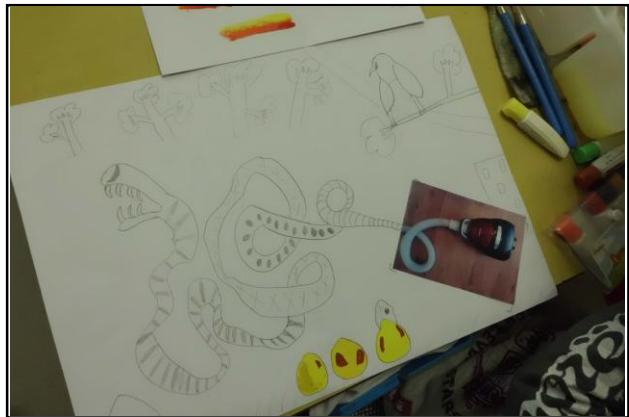


写真をもとに発想を広げて、自分の世界をかく。

#### 宮崎小学校 小野田

○写真を使っていたが、用意したり、選んだりするのが大変だと思う。資料として共有することはできないか。技法の話題も出ていたが、必ず使うということではなく、使えるところは生かすような方向でいいのではないか。

- 写真については4、50枚撮り、学年で相談したうえで20枚にしぼった。道の先が切れていたり、電線の途中だけが写っていたりと、先が想像できるような写真を意識した。選んだが、印刷したら今だった写真もあった。



#### 新城小学校 能登

○下がきの絵に動物が多く登場していた。もともなった写真には特に動物らしいものはなかったが、発想段階でどのような声掛けをしたのか。

- 動物好きな子どもが多く、猫をかいている子どもが何人かいた。写真が20種類あったので、その中でイメージが持てるものを選び、あまり困らずに進めることができた。数人選べない子どもがいたが、最終的には自分で考えて選ぶことができた。

#### 新作小学校 小松原

○写真が色と形となっているが、写真には意味があるのではないか。蛇口があったら、何かが出てくるものという前提がある。色と形に着目して発想していたが、意味についてはどうだったか。

- 写っているものの意味を考えるとそのまま本物の続きをかいてしまうのではないかと思った。電線は電線ではなく、違うものに見えるかとなげかけ、考えを広げていった。

絵の具の溶き方、ぬりかたを工夫する。



#### 久本小学校 黒田

○いろいろな発想がどんどん出てくる活動を見ていて、子どもたちとの信頼関係を感じた。技法の紹介も素晴らしいが、もっと早い段階でもいいかもしれない。絵の具の濃さなどは3年生でも紹介でき、その後ずっと自分の技法として使える。技法が発想のヒントになるのではなく、発想したものを表現するための技法であればいいと思う。今回紹介していたものは絵をかくたびに紹介できるものだったので、参考にさせていただきたい。

#### 新作小画工 三戸部

○お試しシートを使ってよかった。紹介された技法をいきなり作品に使うのではなく、試すことができてよかった。

紹介された技法を参考に自分の世界のイメージをかたちにしていく。



## 指導講評(川崎市立新城小学校校長 中臣 信丈先生)

それぞれ教科書題材だが、教科書通りではなく、工夫して授業にしていた。  
命を吹き込む活動として、造形遊びの中で見立てをしてほしい。という授業だった。  
これは指導要領で言われる感性を育てる活動だったのではないか。

### 1年生

#### • やぶく

みのむしづくり→やぶく楽しさ、やぶくことに慣れる、やぶきかたを知る活動になっていた。

#### • 自分人形

活動に期待感がもてる。

作品を大切に思う気持ちが生まれる

#### • やぶきかた

やぶきかたが意図的になっていくが、いろいろなやぶきかたをしているうちにいろいろな形が生まれる。  
いろいろな形ができることで、作品の可能性が広がる。

#### • 構成の手立て

やぶいた紙の組み合わせや配置を考え、やぶいた紙だけではなく、後ろの紙でイメージが変わることがわかり発想が広がった。

人形を使って探検することで、楽しく主体的に活動することができていた。たんけんしながら足りないところを増やしていくが、新しいものを切る子どもが居なかったことが、子どもたちも今回の活動のねらいをしっかりと理解できていたということではないか。つけたす紙を探している子どもも、同系色で探している子どもと、欲しい形で探している子どもと別れていた。それぞれ考えながら製作していた。作品の中に物語性が生まれていた。

糊の話題が出ていたが、五感を使って経験することが大切。指の感覚で塗っていることを感じる。スティック糊は簡単だが、感覚がわかりづらく、はがれやすいこともあるので、指で塗るようにできるといい。

最終的に題名をつけると思うが、最初からイメージして製作している場合と出来上がってイメージが固まる場合とがある。子どもが製作しながらどのような思考をしているかをみとることも大切。

構想図をぜひ参考にしてもらいたい。

### 5年生

無から有を生み出すのではなく、有から有を生む活動で、想像することが苦手な子どもも楽しめるのではないか。今回は有からの部分に写真を使っていた。指導書では、雑誌や写真から自分で集めてくるようになっているが、本活動では、指導者が用意した。参考作品をつくりながら、どのような活動をしたいのかを考えていった。教科書は子どもたちに考えさせる力が弱いと感じるが、今回の授業のような取り組みは子どもたちも意欲的に考えることができたのではないか。参考作品で写真を上下さかさまに使った2つを紹介していた。この2つを比べることで、一つの写真からでもいろいろな見方ができることが伝わっている。

教科書では、写真を選び貼ってから発想するような流れだが、この授業では、アイデアスケッチを行って、写真との構図を考えていた。今回同じ写真からまったく違う発想を子どもたちはしていた。

今回使ったような参考作品や技法の紹介などの資料を図工室に集めておくと、すぐに使えて充実する。

今回の技法の紹介は今回の活動での作品がよりよくなるように考えて紹介していることが大切。使うかどうかを選ぶのは子どもたち。一回紹介して終わりではなく、繰り返し紹介することで、身についてくる。

写真のイメージを大切に作品にしている。

イメージに合った表現ができるように紹介された技法を試行錯誤しながら進めていた。

とても丁寧に作業を進めていて、作品に対する思いが感じられた。